

千葉大学教育 市原 栄子
跡見学園短大 ○熱田 馨子

1. 綿に代替する代表的化繊織物を対象としてこれらの洗淨によるほつれおよび縫いつれについて実際の検討を行なった。

2. 繊維は、レーヨン、キュプラ、アセテート、ナイロン、ポリエステル、綿の6種を選び、たて、よこ、ななめの3方向について上記の目的が達せられるよう試料を調製した。すなわち、縫糸は、綿、絹、ポリエステル、ナイロンを適宜使い、ピンキング、しつけかがり、切り放しの3種に袋縫を加えた。洗淨は、攪拌型洗濯機で1回10mintとして、500mintまで行なった。

3. 洗淨後の布端のほつれは

① 本実験に用いた平織の範囲内では、たて方向が格段にほつれ易い。

② 縫代のしまつは袋縫を除けば、①のようにどの繊維にも共通した順位はつけられない。例えば、ピンキングについていえばほつれにくい布には効果があるのに、ほつれ易い布には、かえって逆効果である。

③ ほつれ易いのは、レーヨン、キュプラであり、これらに比べればその他の繊維のほつれは僅かである。

洗淨後の縫いつれのできにくいものについていえば、布目ではななめ方向、繊維では、レーヨン、キュプラである。